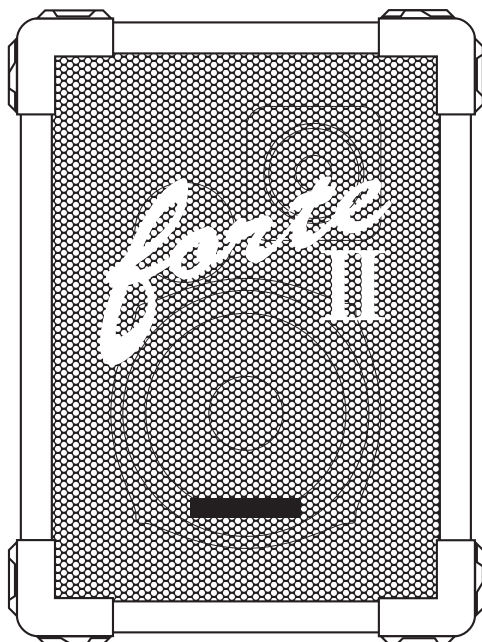




アンサンプルアンプ **SPA-40R**



この度はスズキ・アンサンプルアンプSPA-40Rをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本機は4チャンネルの入力、残響効果を装備し、出力40W、2ウェイのスピーカーを搭載しており、幅広い用途にお使いいただけます。

本製品を末永く、そして安全にご使用いただくため、この取扱説明書をよくお読みください。

お読みになった取扱説明書は、大切に保管してください。

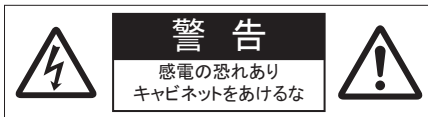
取扱説明書

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになった後は、必ず保存してください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、下記の指示を必ず守ってください。
- 本書では、危険や損害の程度を次の区分で表示し、説明しています。

	警告	この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます
	注意	この表示内容を見逃した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的障害が発生する可能性が想定されます。

この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、機器喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。



警告



電源は必ず交流 100V でご使用ください

交流 100V 以外の電圧でご使用になると、火災や感電の恐れがあります。



異常を感じたら電源を切ってください

万一異臭や発熱などの異常を感じたときは、電源を切り電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ販売店やスズキ各営業所にご連絡ください。

異常状態でのご使用は火災・感電の原因となります。



異物が入ったときは、電源プラグを抜いてください

製品に異物（硬貨や針金）や液体（水やジュースなど）を入れないようにしてください。

故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。

万一、異物が内部に入ったときは直ちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ販売店またはスズキ各営業所にご連絡ください。



改造・分解は危険です

改造や分解はしないでください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。



濡れた手で触れないでください

濡れた手で電源プラグ・コード及び本体に触れないでください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。



湿気の多い場所は避けてください

水分や湿気の多い場所では絶対に使用・保管しないでください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。



ほこりの多い場所は避けてください

ほこりの多い場所での使用は避けてください。故障や発火の原因になることがあります。

また電源プラグにほこりが付いている場合、そのまま使用すると感電などの原因となりますので、ほこりを拭き取ってからご使用ください。



● 次のような場合はただちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ販売店またはスズキ各営業所にご連絡ください。

■ 電源コードやプラグが破損したとき

■ 異物や液体が中に入ったとき

■ 機器が雨その他で濡れたとき

■ 機器に異常が発生したとき



注意



熱くなる場所を避けてください

自動車の中や暖房器具のすぐ近くなど、極端に熱くなるところでの使用、保管は避けてください。変形・故障の原因になることがあります。



衝撃を与えないでください

製品をぶつけたり、落としたりしないでください。製品に傷を付けるだけでなく故障の原因になります。



製品の上に乗ったり、重いものを乗せたりしないでください

製品が破損する原因にもなりますし、製品が転倒したりしてお客様がケガをする危険性があります。



不安定な場所に置かないでください

製品を不安定な場所に置かないでください。転倒・落下して、お客様がケガをする危険性があります。



移動の際には接続ケーブルをすべて外してください

移動させるときは電源プラグ、接続ケーブルはすべて外してください。コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



使わないときは電源プラグを抜いてください

ご使用の後は電源スイッチを切ってください。長時間使用しないときや落雷の恐れがある場合は、製品保護のためコンセントから電源プラグを抜いてください。



コードは引っ張らないでください

電源コードの上に物を置いたり、引っ張ったりしないでください。

また電源プラグをコンセントから抜くときは電源コードではなく、必ず電源プラグを持って引き抜いてください。電源コードが傷つき、感電などの原因になり大変危険です。



お手入れは柔らかい布で

お手入れは柔らかい布でから拭きしてください。アルコール・シンナー・ベンジン等は製品を傷めますので絶対に使用しないでください。



接続時は電源を切って

各機器との接続時は、接続するすべて機器の電源を切ってください。それぞれの機器の取扱説明書に従い、指定のコードを使用して接続してください。

電源を入れる前に音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害を引き起こす恐れがあります。



大音量に注意

不快に感じるような大音量では、使用しないでください。この機器は大音量での使用により、聴覚障害を引き起こす恐れがあります。

保護回路が働いたら

本機を高温環境且つフルパワーで連続使用した場合、安全のため保護素子が働き電源が自動的に切れる場合があります。

このような場合は電源スイッチを一度切り、30秒以上経ってから再び電源スイッチを入れると復帰できます。

目次

安全上のご注意	2
目次	4
仕様	5
各部の名称と働き	6
接続例	8
ハーモニカソロでの使用例.....	8
SPA-40*を併用してパワーアップする	8
ハーモニカアンサンブルでの使用例	9
大正琴アンサンブル(小編成)での使用例.....	10
大正琴アンサンブル(大編成)での使用例.....	11
大正琴邦楽アンサンブルでの使用例	12
大正琴ダイレクトボックスの使用例	13
アンサンブルキーボードの使用例	14
アフターサービス.....	16

本書に登場する製品の品名／型番は、2023年4月4日現在の情報を基に掲載しています。
生産完了品については、型番に「*」を付けて記載しています。

仕様

スピーカー

ウーハー 13cm、ツイーター 5cm

形式

2ウェイ、バスレフ型

定格出力

40W

最大音圧レベル

103dB SPL

再生周波数帯域

55Hz ~ 15kHz

入力チャンネル数

4

コントロール

音量(1 ~ 4)、低音／高音(1&2、3&4)、残響、残響(3&4)、
主音量、電源

入出力端子

入力1 ~ 4

入力感度 10mV、インピーダンス 50k Ω 、モノラル標準
ジャック

ライン出力

インピーダンス 1k Ω 、モノラル標準ジャック

電源

AC100V 50/60Hz

定格消費電力

33W

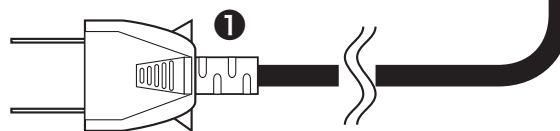
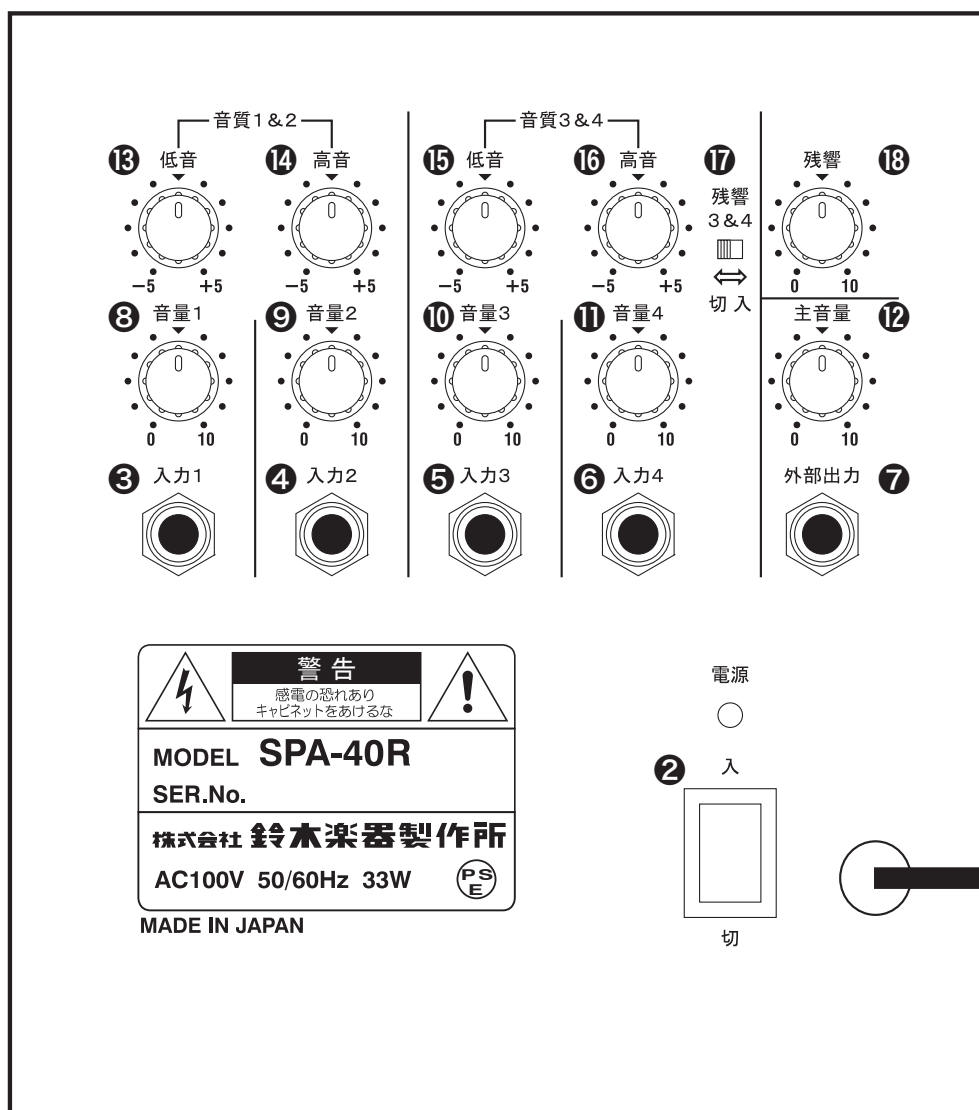
外形寸法

幅 24x 高さ 32x 奥行 22cm

重量

6.9kg

各部の名称と働き



① 電源プラグ

本機の動作には電源が必要です。ご使用時には、電源プラグをAC100Vコンセントにしっかりと差ししてください。ご使用後は、電源プラグを持ってコンセントから抜いてください。

② 電源スイッチ

本機の電源を入／切するスイッチです。

本機の通電時には電源スイッチ上のランプが点灯します。

各機器を接続するときは雑音を防ぐため、本機の電源スイッチを切った状態で行ってください。

電源を入れる際には突然大きな音が出ないように、主音量つまみ⑫を最小にしてください。

内部回路保護のため、電源を入れて約3秒間は音が出ません。

③～⑥ 入力1～入力4ジャック

音声入力端子です。

マイク、大正琴、キーボード、CDプレイヤーといったマイクレベルからラインレベルまでの機器を接続できます。

端子はモノラル標準ジャックです。

⑦ 外部出力ジャック

録音機へ接続して録音したり、他のアンプへ接続して更に大音量を得たりするための出力端子です。

出力はラインレベルで、端子はモノラル標準ジャックです。

⑧～⑪ 音量1～音量4つまみ

各入力端子に接続された機器の音量を調節します。

0で音は出なくなり、つまみを右に回すに従って音量が大きくなります。

⑫ 主音量つまみ

本機全体の音量を調節します。

[音量1]～[音量4]つまみを音が歪まない範囲でできるだけ大きく設定し、主音量つまみで程良い音量に聞こえるよう調整することで、最も雑音を少なくすることができます。

また、一時的に消音したい場合にこのつまみを使えば、[音量1]～[音量4]つまみのバランスを保った状態で消音を行うことができます。

⑬～⑭ 音質1&2つまみ

[入力1]及び[入力2]の音質を調節します。

中央位置が標準の設定です。

低音を上げると音の量感が増し、下げるとマイクを接続した場合の風雑音を軽減することができます。

高音を上げると音のきらびやかさが増し、下げると柔らかい音になります。

⑮～⑯ 音質3&4つまみ

[入力3]及び[入力4]の音質を調節します。

⑰ 残響3&4スイッチ

[入力3]及び[入力4]に残響効果をかけるかどうかを設定します。

このスイッチを「切」にすると、[入力3]及び[入力4]には残響効果はかかりません。

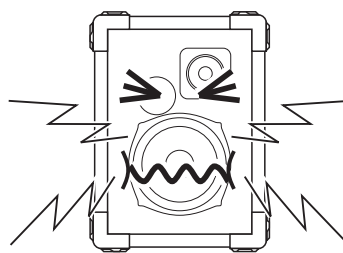
このスイッチの位置に関わらず、[入力1]及び[入力2]には常に残響つまみ⑱で設定した残響効果がかかります。

⑱ 残響つまみ

音にコンサートホールのような残響効果を付けます。

0で残響効果はかからず、つまみを右に回すに従って効果が深くなります。

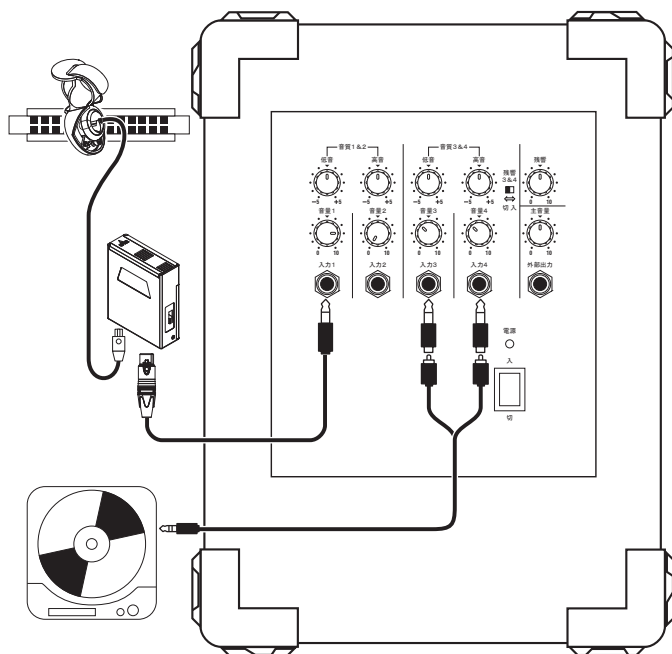
音が歪むときは



1. [音量1]～[音量4]つまみを、音が歪まない位置まで左に回して下げます。
2. [主音量]つまみを、必要な音量が得られる位置まで右に回して上げます。

接続例

ハーモニカソロでの使用例



ハーモニカ用マイクは[入力1]に接続し、伴奏用としてCDプレイヤーなどを使用する場合には[入力3]と[入力4]に接続します。これにより、ハーモニカと伴奏とで音質調整が別々に行えます。

HMH-100等、XLR端子のマイクはCI-5等、標準プラグへ変換するケーブルを使用して接続します。

ポータブルCDプレイヤーの出力端子はステレオミニジャックであることが多いので、ステレオミニプラグ対ピンプラグ×2の接続コードを1セット、ピンジャック対標準プラグのアダプター2個を使用することにより接続できます。

マイクの出力レベルは小さいため[音量1]つまみは大きく、CDプレイヤーの出力レベルは大きいので[音量3] [音量4]つまみは小さめに設定します。

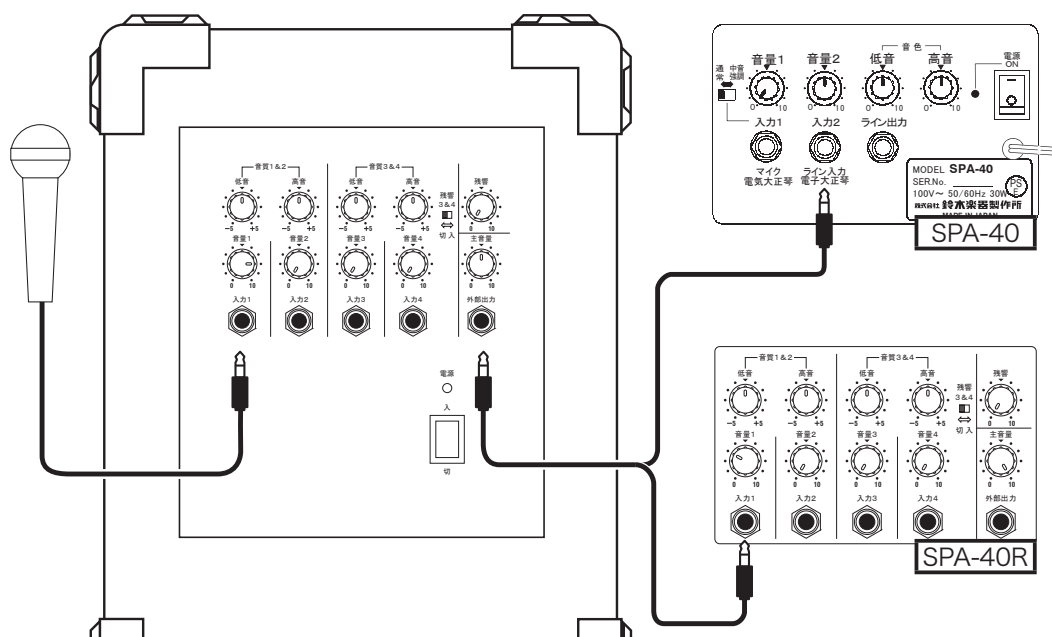
残響をハーモニカだけにかけ、伴奏にはかけたくない場合は、[残響3&4]スイッチは「切」にしておきます。

SPA-40★を併用してパワーアップする

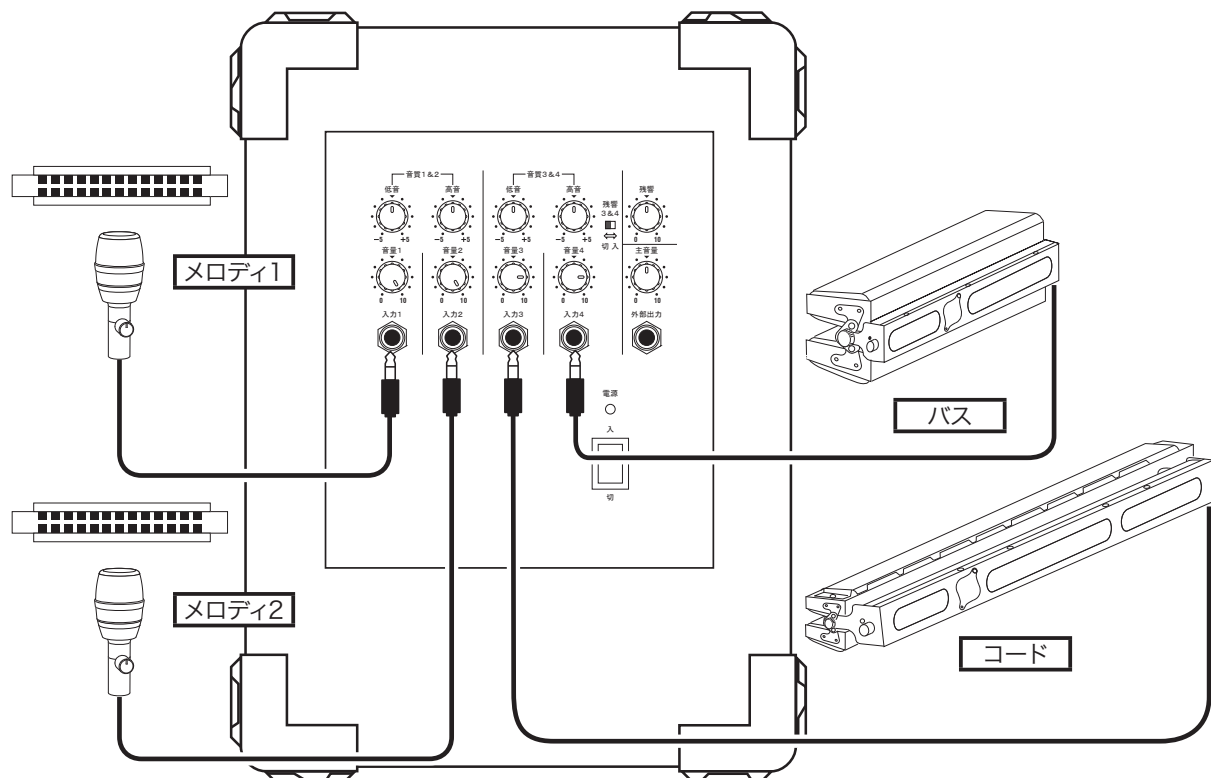
本機のみで出力が不足する場合は、外部出力端子から子機として用意したSPA-40★の[入力2]端子へ接続することで、両方のスピーカーからの再生によるパワーアップが図れます。

SPA-40の[音量2]、[低音]、[高音]の各つまみは中央に合わせます。

子機としてSPA-40ではなくSPA-40Rを使用する場合には、子機側の[音量]を3、[主音量]を10に合わせます。



ハーモニカアンサンブルでの使用例



上図はメロディ用ハーモニカ2台、コードハーモニカ、そしてバスハーモニカによるハーモニカカルテットの場合の接続例です。

メロディ用マイクは[入力1]と[入力2]へ、コードハーモニカ用マイクは[入力3]、バスハーモニカ用マイクは[入力4]へ接続します。

マイクロホンにボリュームつまみが付いている場合、演奏前は中央にしておくと、演奏中に手元で音量を調整し易くなります。

接続が終わったら電源を入れ、本機の全つまみを中央に設定します。

演奏者に音を出してもらい、1から4の各[音量]つまみで音量バランスを調整します。

全体の音量は[主音量]つまみで設定します。

残響効果をかけるには[残響]つまみを右に回します。

リズム感をはっきりさせるため、残響をメロディだけにかけ、コード及びバスハーモニカにはかけたくない場合は、[残響3&4]スイッチは「切」にしておきます。

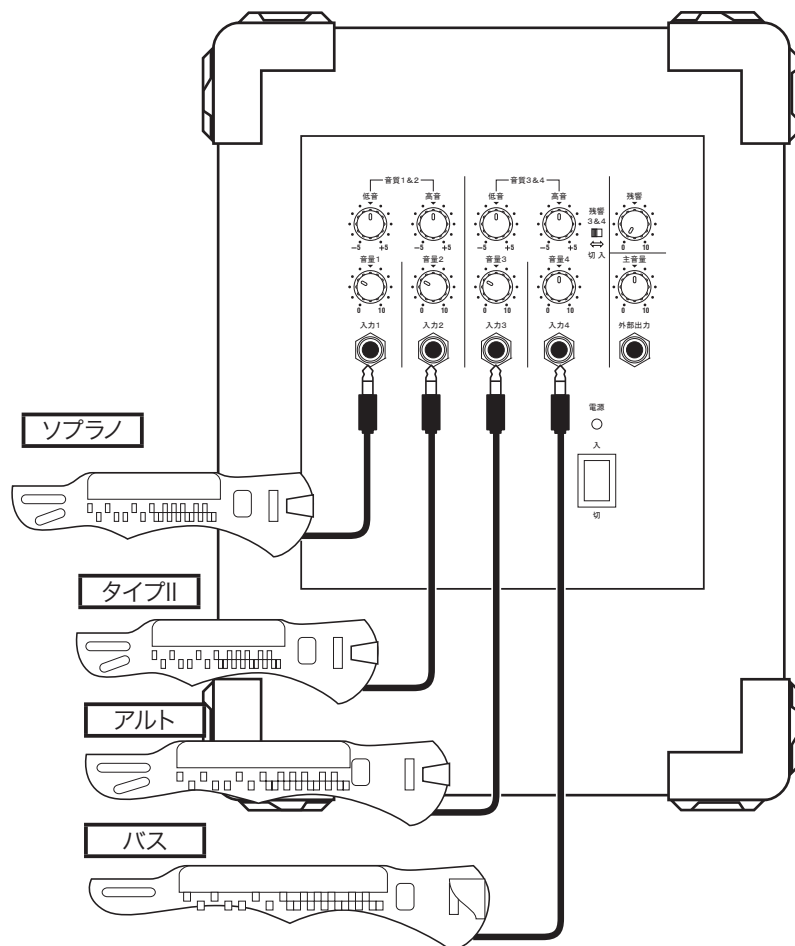
大きな会場での演奏では、コードハーモニカ及びバスハーモニカにそれぞれ専用のアンプを用意すると、パワーに余裕ができ、またそれぞれの演奏者自身の演奏を聞き取り易くなり、より良い結果が得られます。

次の表は、当社製ハーモニカと、対応するマイクロホンの組み合わせです。

楽器	マイクロホン	備考
メロディ担当 (複音、クロマチック、 10穴等)	ダイナミック型、 HMH-100、 HMH-200等	マイクロホンがXLR端子 の場合は標準プラグへ変 換して接続(マイクケー ブルCI-5等を使用)
SCH-48, BCH-48	HMC-2	-
SCH-24*	HMC-4*	-
SDB-39*/-39V2	HMB-1	-
SDB-29*/-29V2	HMB-3	-

型番後の「*」は生産完了品を表します。

大正琴アンサンブル（小編成）での使用例



本機は4チャンネルの入力を備えていますので、4台までの楽器を直接接続することができます。

各入力ジャックとも全ての電気大正琴に対応しておりますので、大正琴を接続後、各楽器とも適切な音量バランスになるよう各[音量]つまみを調節します。

その後、全体の音量を[主音量]つまみで設定します。

小会議室程度であれば、本機1台で十分な音量を得られます。

例えば、こはくシリーズのアンサンブルを行う場合には上図のようにソプラノを[入力1]、タイプIIを[入力2]、アルトを[入力3]、バスを[入力4]へ接続し、[音量4]つまみを[音量1～3]つまみよりも大きめに設定します。

あまり音圧が感じられないのに「バチバチ」と歪む場合は、各[音量]つまみを歪まない位置まで左へ回し、[主音量]つまみを右に回して必要な音量を得ます。

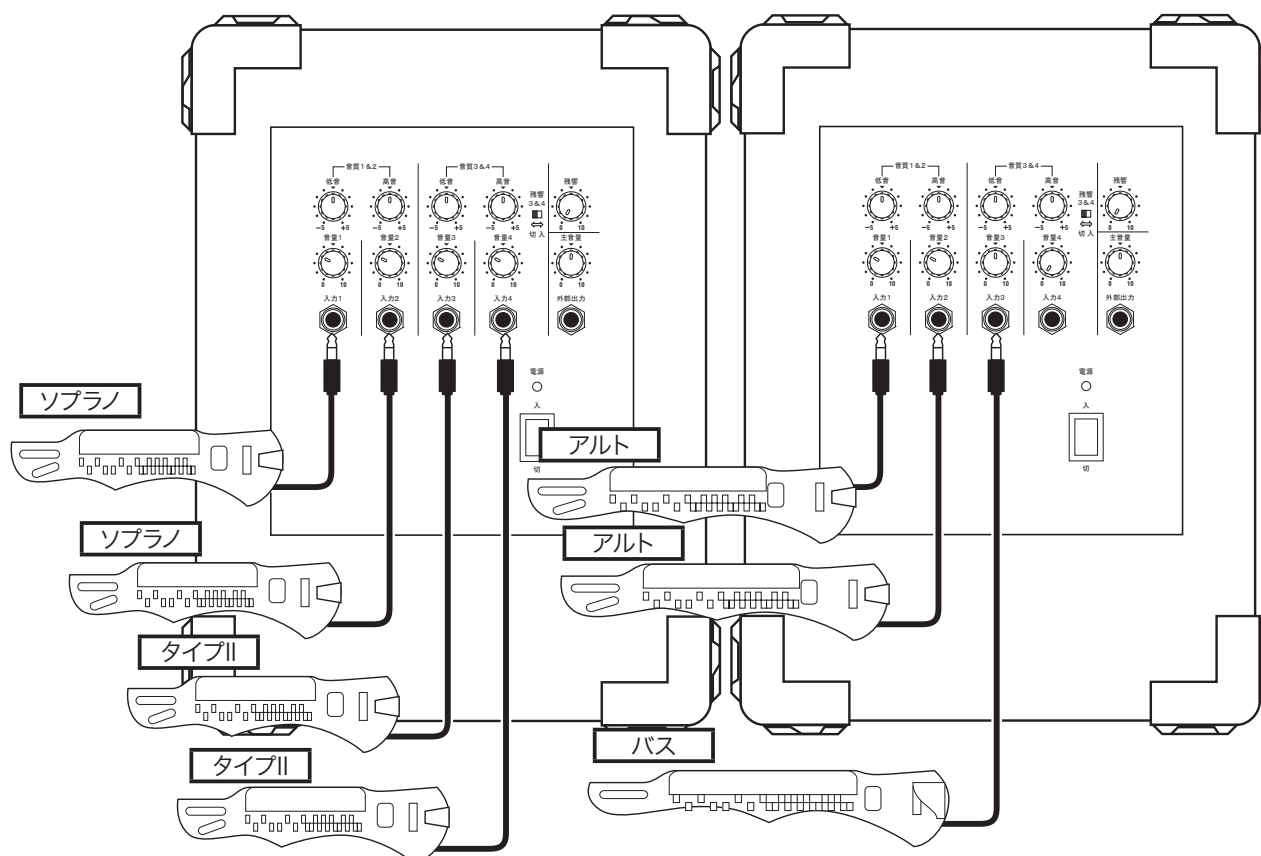
「ザー」という雑音が耳に付く場合は、[主音量]つまみを雑音が気にならない位置まで左へ回し、各[音量]つまみを右に回して必要な音量を得ます。

残響効果をかけるには、[残響]つまみを右へ回します。

上図の編成でソプラノ、タイプIIのみに残響効果をかけるには、[残響3&4]スイッチを「切」に設定します。

また、本機にソプラノなど同パートの楽器を4台接続し、全ての入力に残響効果をかけるには、[残響3&4]スイッチを「入」に設定します。

大正琴アンサンブル（大編成）での使用例



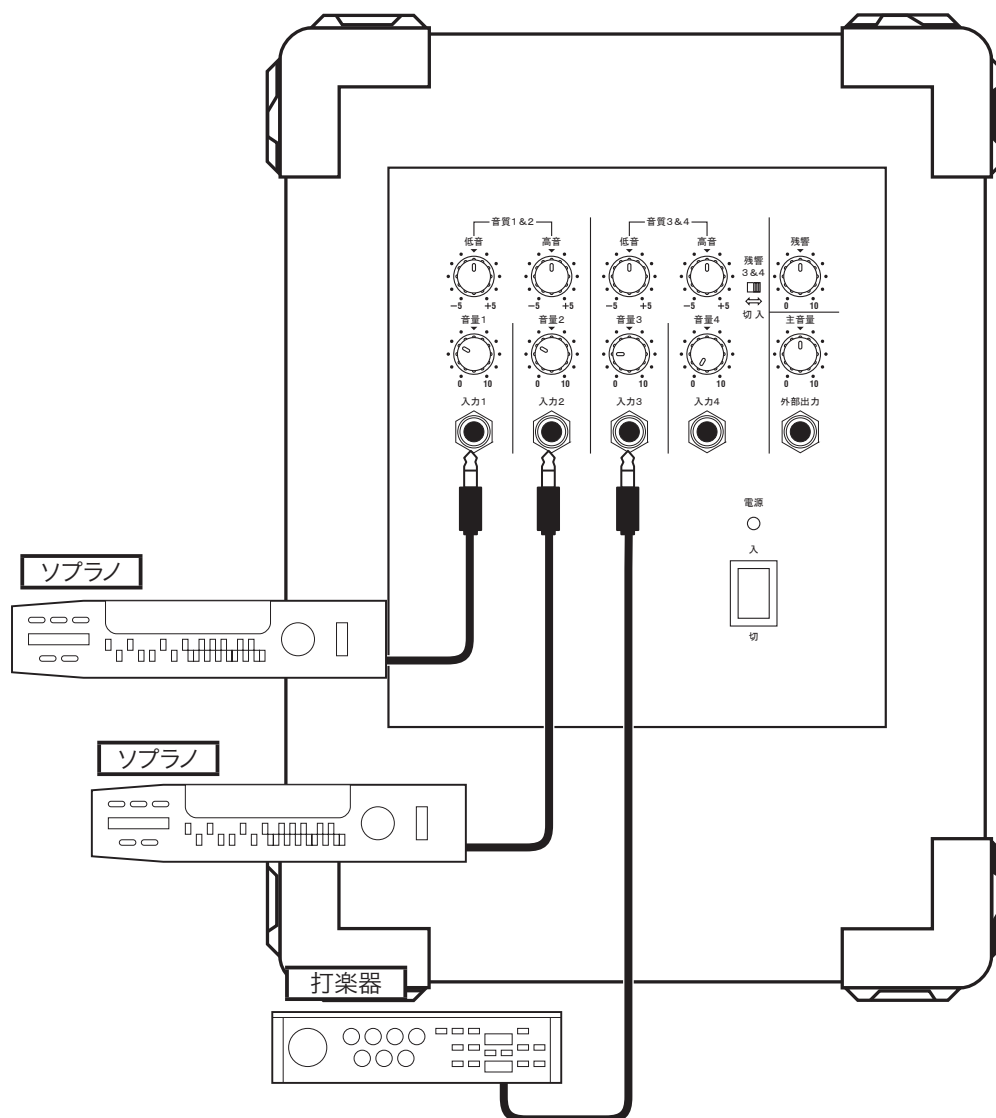
電気大正琴の台数が多い場合、本機を複数台用意しパート別に分けて使用すると、立体感があり明瞭度が高い再生が可能で、1台ごとの音量調整も簡単です。

特に広い会場において、この接続方法は接続ケーブルを引き回す距離が短くて済み、またそれぞれの演奏者自身の演奏を聞き取りやすいため便利です。

上図はこはくソプラノ^ツ2台、タイプII 2台、アルト2台、バス1台を2台の本機に振り分けた接続例です。

この接続のしかたであれば、パート別に[低音]、[高音]の音質つまみを使って音づくりが可能になります。

大正琴邦楽アンサンブルでの使用例



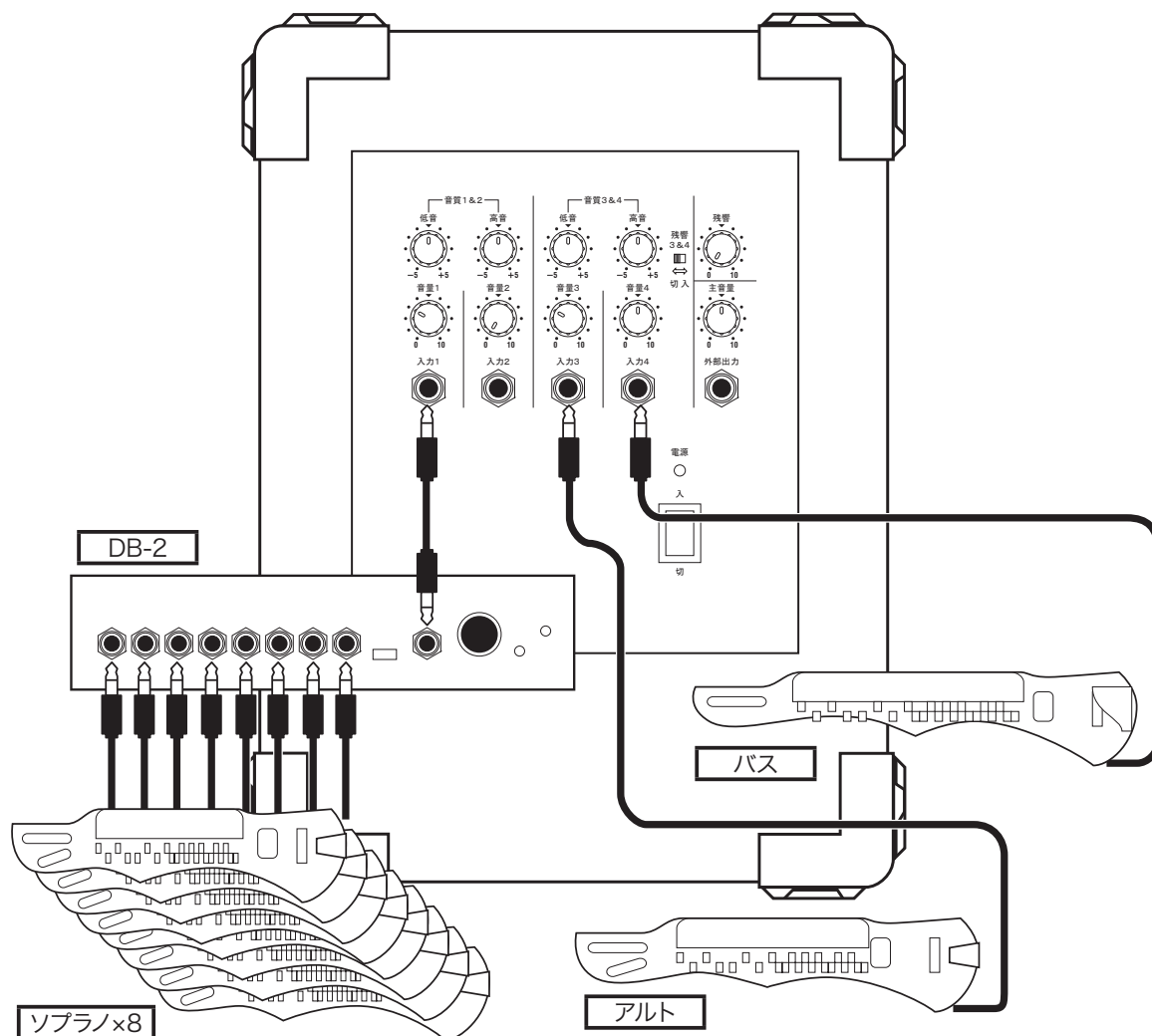
上図は2台の電気大正琴と電子打楽器DPS-100「拍調」を使った邦楽アンサンブルでの接続例です。

邦楽に於いては音符と音符との「間」が大切で、これを表現するのに本機の残響が活用できます。打楽器のようなすぐに消えてしまう音に対しては特に効果的です。

上図の接続と設定では、全てのパートに残響がかかります。

電子打楽器だけに残響をかけ、電気大正琴には残響をかけたくない場合は、上図とは逆に[入力1]に電子打楽器を、[入力3]と[入力4]に電気大正琴を接続し、[残響3&4]スイッチを「切」にします。

大正琴ダイレクトボックスの使用例



本機に同一機種の電気大正琴を多数接続したい場合は、大正琴ダイレクトボックスDB-2を使用します。

上図は大正琴教室の練習を想定し、こはくソプラノ8台を大正琴ダイレクトボックスを使って接続し、こはくアルト及びバスを本機に直接接続した例です。

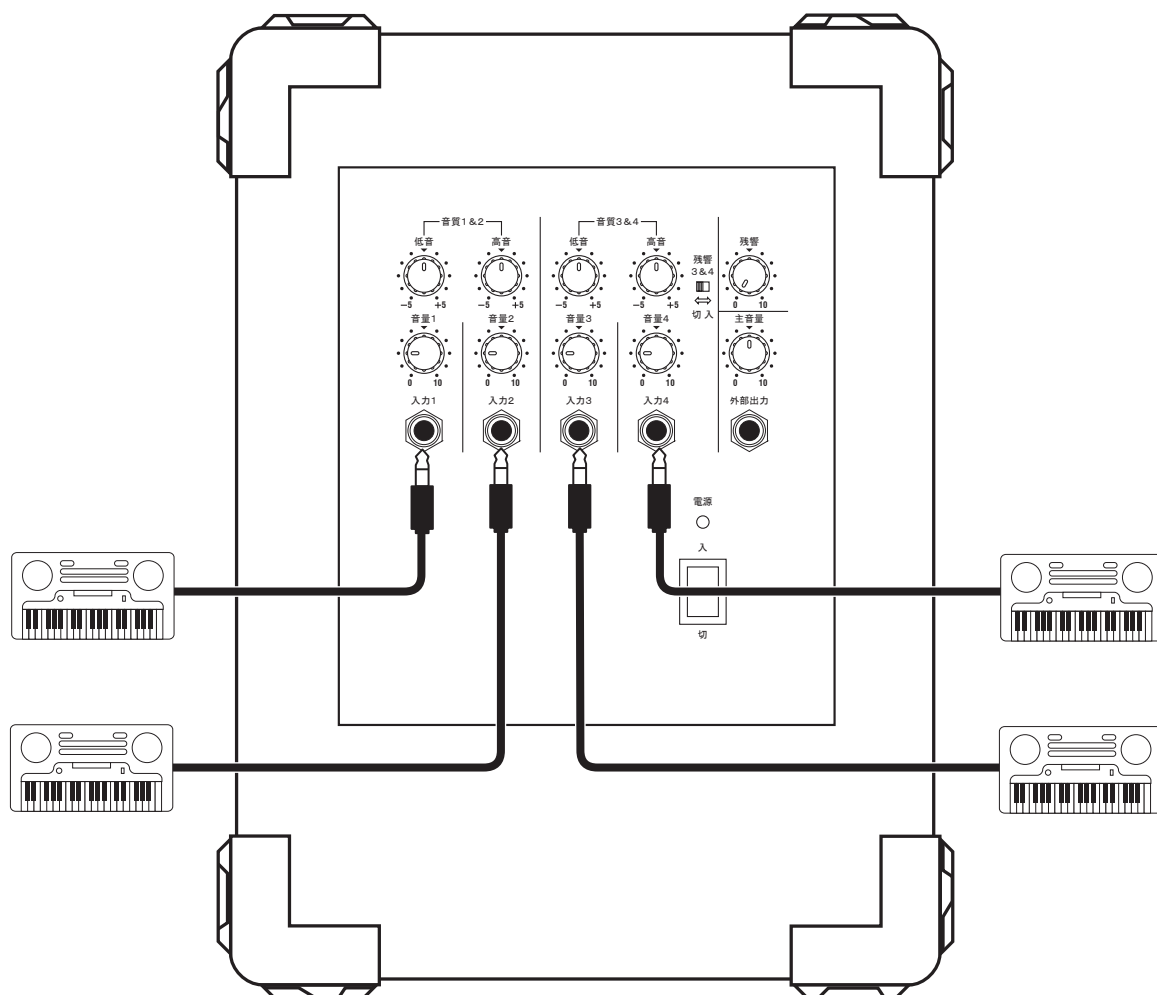
大正琴ダイレクトボックスDB-3の場合、こはくソプラノ／タイプⅡを合わせて5台、アルト2台、バス1台を1つのチャンネルにまとめることができます。

但しこれらのように、本機1台に多数の楽器を接続した場合、パート別に複数の本機を使用した場合に比べ、パワーの余裕が無くなり、また各演奏者自身の演奏が聞き取りづらくなります。

あまり音圧が感じられないのに「バチバチ」と歪む場合は、各[音量]つまみを歪まない位置まで左へ回し、[主音量]つまみを右に回して必要な音量を得ます。

「ザー」という雑音が耳に付く場合は、[主音量]つまみを雑音が気にならない位置まで左へ回し、各[音量]つまみを右に回して必要な音量を得ます。

アンサンブルキーボードの使用例



学校でアンサンブルキーボードHEKシリーズやポータブルキーボードを採り入れたアンサンブルに於いて、キーボードの内蔵スピーカーだけでは音量が足りない場合には本機を使ってパワーアップをする事ができます。

本機1台で通常教室や音楽室では十分な音量を得られます。

キーボードの外部出力レベルは比較的大きいため、[音量]つまみは中央よりやや左に設定します。各キーボードのバランスを調整した後、[主音量]つまみで全体の音量を設定します。

体育館での音楽会など広い会場で多くのキーボードを使って演奏する場合は、本機1台に全ての楽器を接続するのではなく、各楽器に対して1台ずつ本機を使用することで、パワーに余裕のある演奏を行うことができます。

アフターサービス

この商品には保証書を下記添付しております。所定の事項の記入後、記載内容をご確認の上大切に保管してください。

保証書の記載内容によりお買い上げ販売店が修理いたします。その他、詳細は保証書をご覧ください。

保証期間が切れましても、修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理いたします。

アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはもよりの営業所にお問い合わせください。

株式会社 鈴木楽器製作所

〒430-0852 静岡県浜松市中区領家2-25-7 ☎ (053) 461-2325

鈴木楽器販売株式会社

本社 〒430-0815 静岡県浜松市南区都盛町157-1 ☎ (053) 477-8800

最新の情報に関しましては、弊社ホームページをご覧ください。

www.suzuki-music.co.jp

お問い合わせは下記まで

www.suzuki-music.co.jp/contact/



お問い合わせフォーム

00457-30030
V1.33 20230404